まちぴか

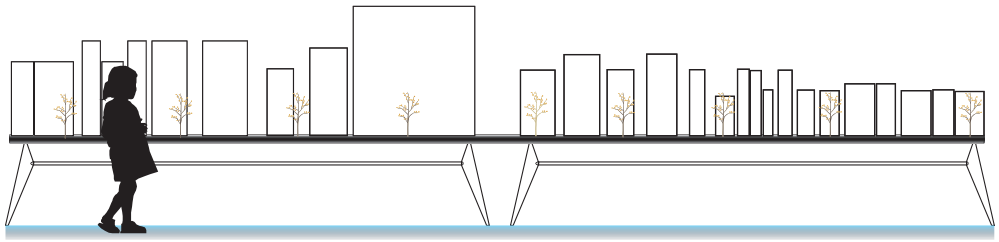
尾山台ハッピーロード商店街で住民参加型のイルミネーションを提案する。それを実現させる際子供の自由な発想は有効だと考え、子供を対象としたS=1/25の異なる条件の模型に「こんなクリスマスイルミネーションがいいな」と思う街のイルミネーションを施す、実験を兼ねたワークショップを行った。

ワークショップ概要

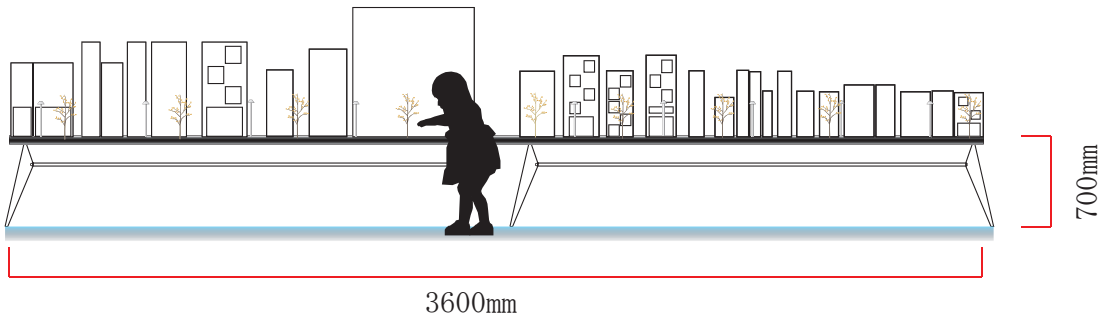
ハウスクエア横浜で行われるクリスマスワークショップの一つとして実施しました。暗い室内で行うことにより、LED 電球の光が目立ち、想像力を引き出します。商店街の要素がイルミネーションに影響があるかどうかを探るために、条件①「商店街を抽象化し、建物のボリューム、木、人の模型」と条件②「開口を施した建物のボリューム、街路灯、木、人の模型」の二つの条件を設定しました。参加者には「自分の住む街がこんなイルミネーションだったらいいな」と思うようなイルミネーションを作ってもらいました。

開催日時	2011年11月26日(土)・12月10日(土)			
開催時間	13:00-14:30/15:00-17:30			
開催場所	ハウスクエア横浜(神奈川県横浜市中川区)			
内容	街のイルミネーションをつくるワークショップ			
参加人数	模型条件①	10人(小学生以下男女)		
	模型条件②	15人(小学生以下男女)		
	模型条件③	1人(小学生以下男女)		
模型	躯体	段ボール(表面:ジェッソ塗り)		
	平面	商店街航空写真(google earth)		
土台	幅3600×奥行450×高さ700mm			
用意した材料	LED	150個	ラメ入りのり	2色
	リボン	3種	油性ペン	3色
	看板添景	20個	折紙	5色

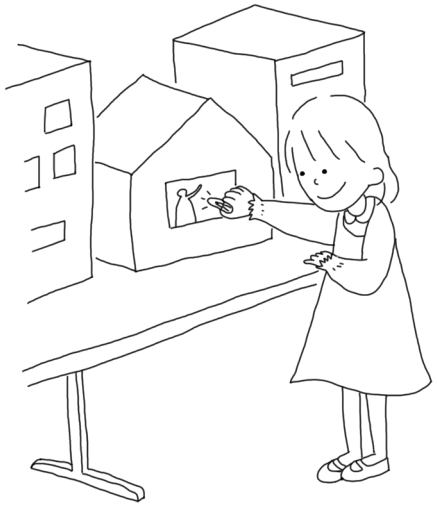
条件①



条件②

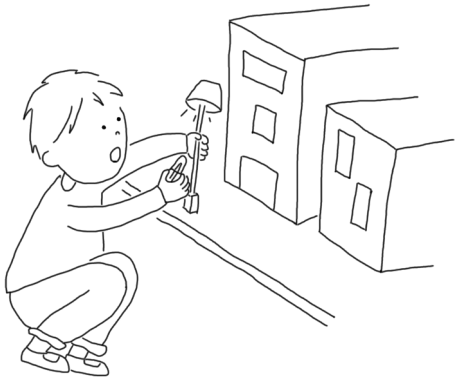


イルミネーション傾向



開口内部の色を変える

表現も多く見られました。開口がある建物に LED をつける理由として多くあがったのは建物からの窓明かりを表現する子どもが多く、商店街のイルミネーションの際に建築内部から外部へ漏れだす光は有効ではないかと考えられます。

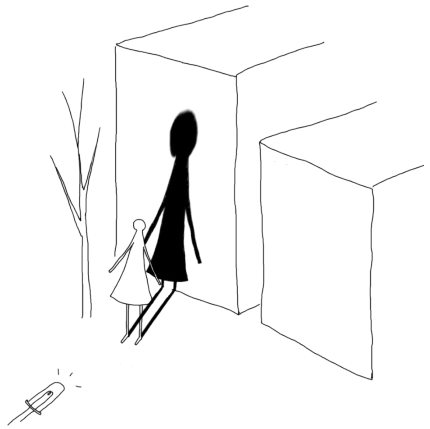


街路灯の色を変える

イルミネーションも生まれました。色を変える理由として、「白い光だと楽しくない。」、「このお店は青色だから、ココも青色！」など色へのこだわりを持って表現していることがわかりました。

影を楽しむ

スケール感を出すために置いていた人や樹木、自転車などに光を当てて子どもたちがいました。「この人が歩いてくるとこっちに影が出るから…。」など建築と人との関係を見ながら光をつけていく行動が見られました。「建物をかっこよく照らす」というよりも「そこに生活する人や行動」を考えてイルミネーションをしていると言えます。



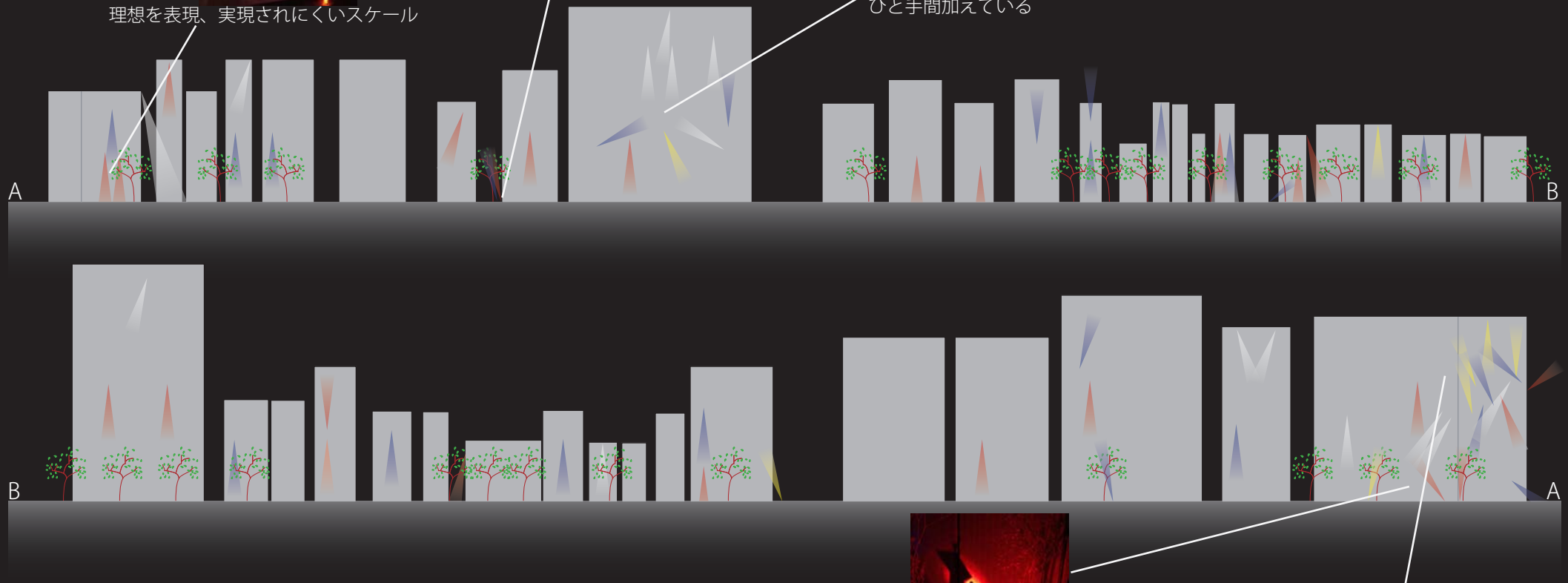
条件①「商店街を抽象化し、建物のボリューム、木、人の模型」
光による活動の分布

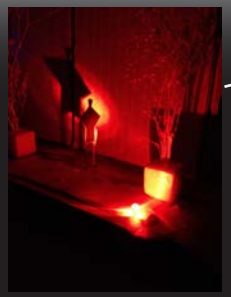
時間：４時間
参加人数：10 人

理想を表現、実現されにくいスケール

地面から木や人を照らす、足元の光

建物に描いたものを照らす、
ひと手間加えている





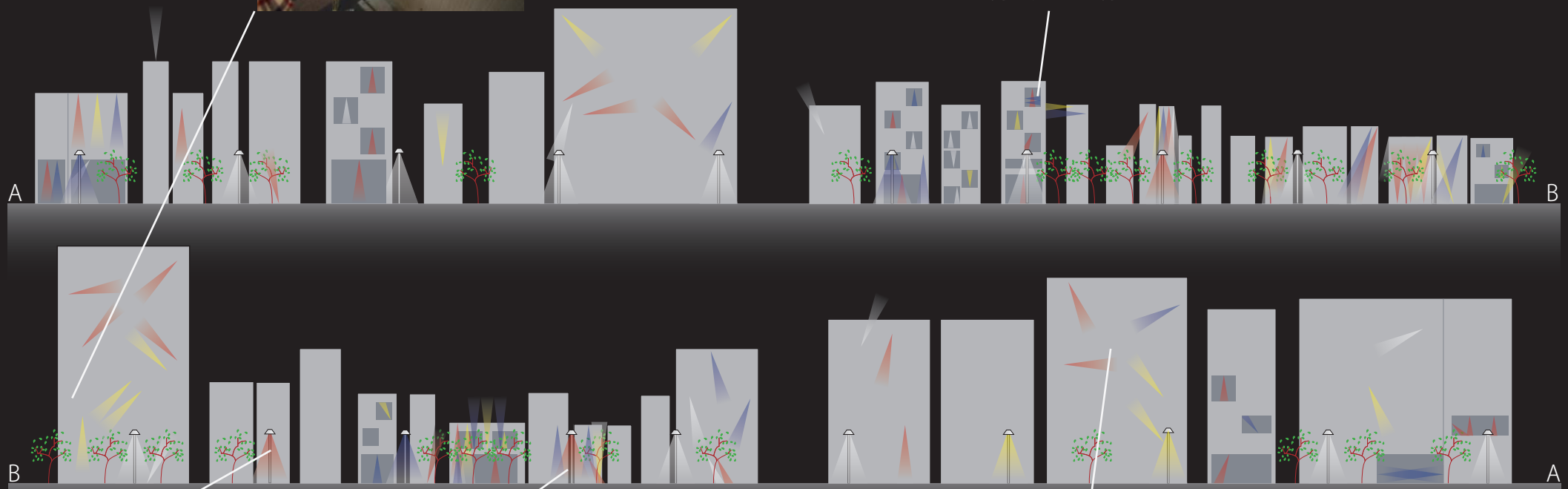
人を照らして影遊び

大きな建物ほど多くの LED が付けられている

条件②「開口を施した建物のボリューム、街路灯、木、人の模型」結果
光による活動の分布

時間：２時間
参加人数：11 人
建物総数：43
開口あり棟数：10

室内の明かりの再現



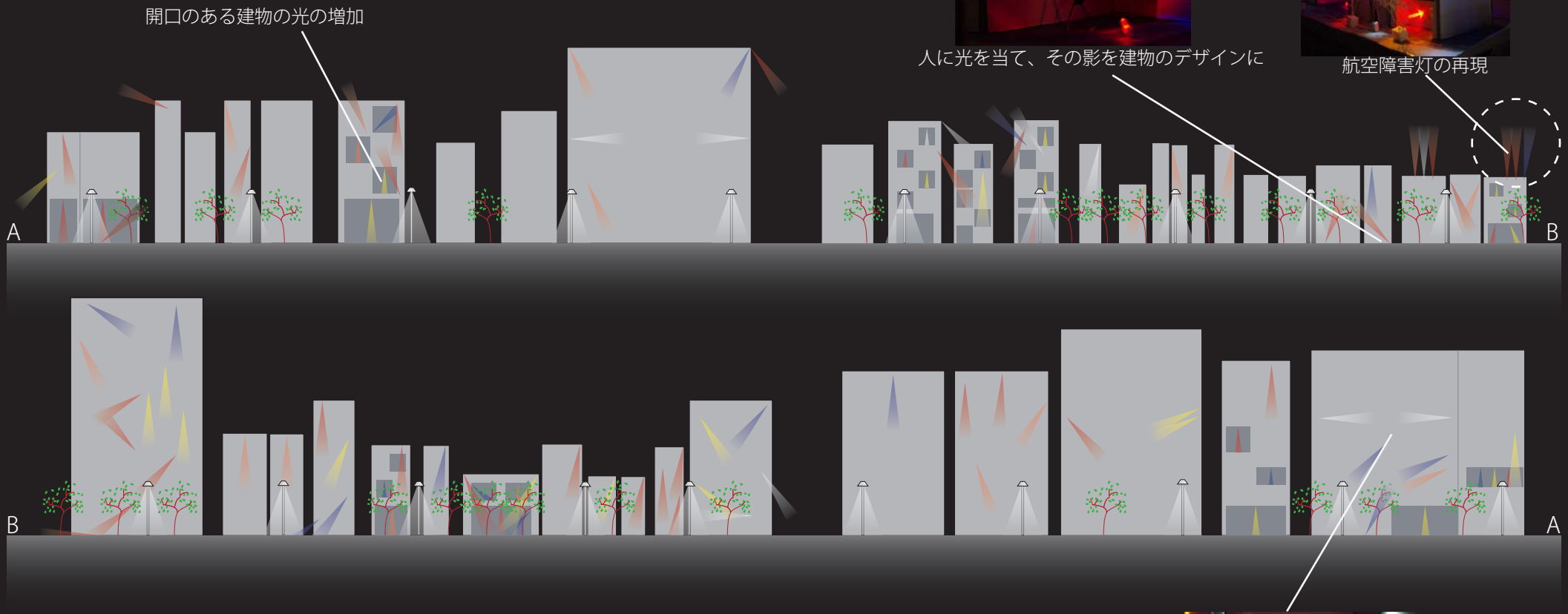
街灯の色を変える

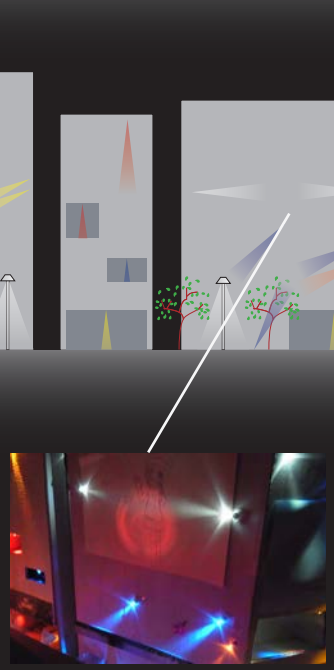
空間が明るくなる、実現されやすいデザイン

建物の２階以上の光の増加、足元の光の減少

条件③「開口を施した建物のボリューム、街路灯、木、人の模型」結果
光による活動の分布

時間：２時間
参加人数：1 人
建物総数：43

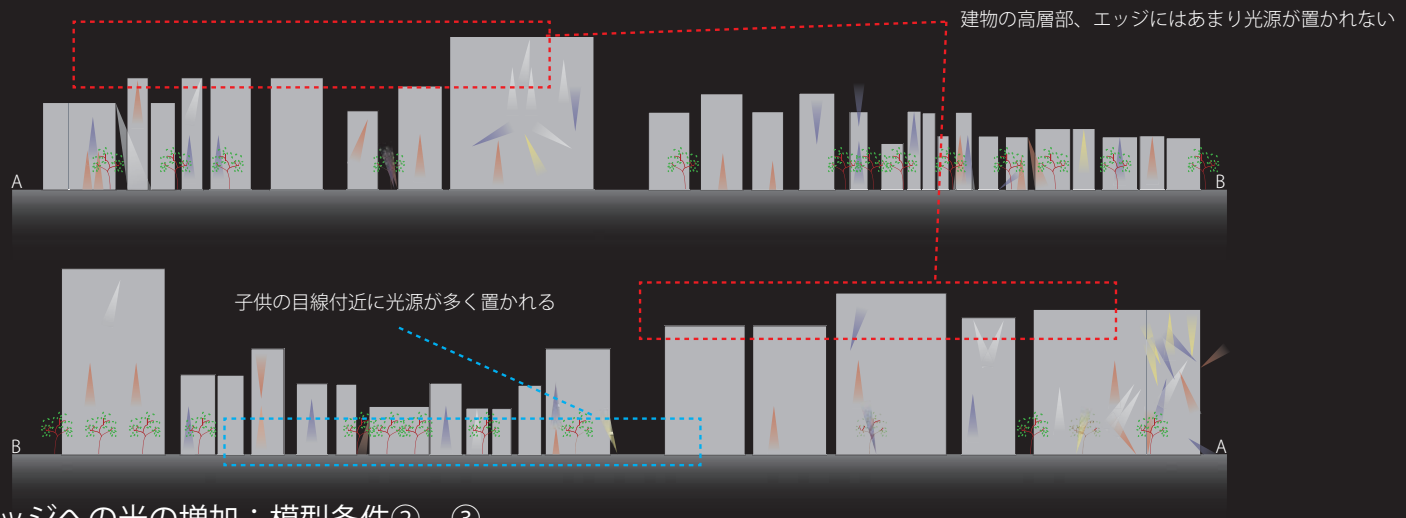


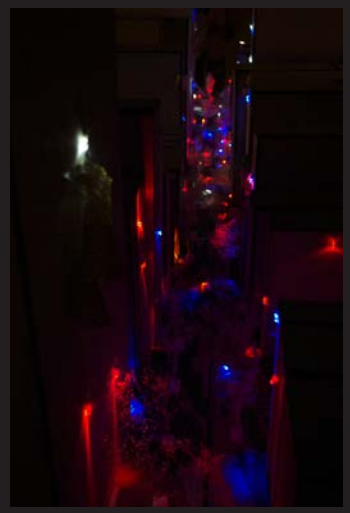


看板や建物の装飾に光を当てる

街並みとして

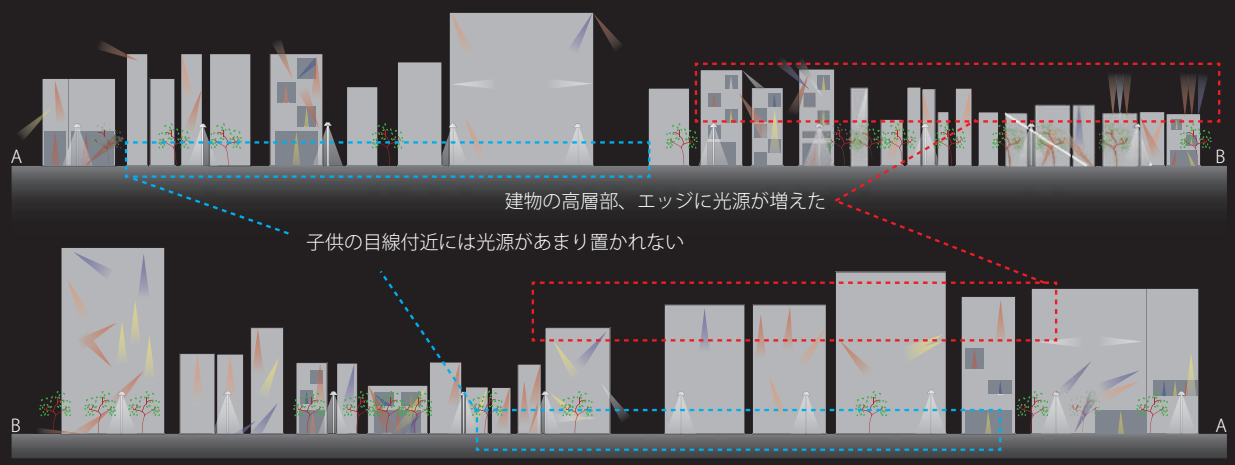
子供の目線付近の光源が目立つ：模型条件①

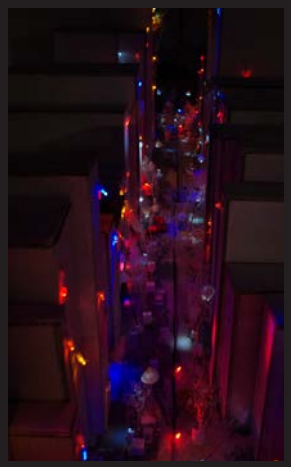




条件①

エッジへの光の増加：模型条件②、③





条件②

条件①、条件②を街並みとして全体で見て比較してみます。条件①では低層付近子供の目線程の高さに光源が集中したのに対して、条件②では建物のエッジなど高いところにまで光源が広がった事が分かります。そのため、条件②の方が空間的に明るく感じられます。

光の表現

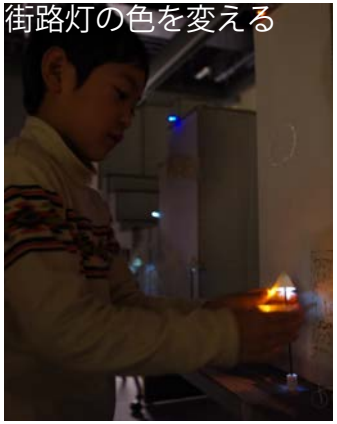
条件①では光源によって照らされる対象物が主に人や木、リボンを使った創作物だったのに対して、条件②、③ではそれらは減少し、開口内部や子供が描いた絵が増加しました。また , 光を模型に設置しただけではなく光を用いて空間に活動を発生させようとしたものをまとめました。条件①では個性豊かな表現が見られたのに対し、条件②、③では現実の街に近いものが多く生まれました。

光源設置箇所

模型条件		条件①			条件②				条件③			
参加人数		10			11				4			
実施時間(h)		4			2				2			
		設置場所										
		木	地面	建物	街灯	木	地面	建物	街灯	木	地面	建物
照らす対象物	木	2	6	2	0	5	1	0	0	0	4	1
	人	0	10	4	0	0	0	0	0	0	3	0
	路地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	創作物	0	0	8	0	0	1	5	0	0	0	4
	看板	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	8
	描いた絵	0	0	5	0	0	3	17	0	0	0	7
	開口	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	31
	街灯	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
	小計	37			82				59			
	不明確	0	10	49	0	0	0	48	0	0	4	64
	小計	59			48				68			
	合計	96			136				127			

	条件①	条件②
光による表現	雪だるまの目にする	街灯の色を変える
	建物に絵を描く	航空障害灯をつける
	建物にリボンをつける	各店舗に合った光源をつける
	歩道に絵を描く	開口内部に住人を描く
	歩道に池を作る	時計塔を描く
	クリスマスツリーを描く	開口がないものに窓を描く
	自分の似顔絵を描く	

特徴的な表現



アンケート結果

ＷＳ後の大人へのアンケート結果より子供達が街でイルミネーションを行うこと、またその街に住むことに対して賛同する意見が得られ、実現させるために必要なこと、実現したときに起こる事という質問に対して多くの意見が集まりました。

質問１：実際のまちで子どもたちが自由に何かを工作し、まちのイルミネーションをつくることについてどう思いますか？

回答：

・決められたことをするのではなく、自分たちで考えてつくりあげていくという事はすごく良い体験と感じます。

・子どもたちの目線で楽しく安全なまちのイルミネーションになりそうですね。楽しい発想だと思います。

質問２：この街がみなさんの住む街だったらどうですか？

回答：

・毎日がクリスマス…、遊園地みたいで…団らんでもあたたかくハッピーな会話が弾みそうですね。

・街が明るくなって、人々の笑顔が見られたらいいと思います。

・住民は参加して１つの街を作り上げれば親しみを感じ、明るい街になりそう。

質問３：実現させていくにはもっとどうすればよいと思いますか？

回答：

・自治会や商店街、または学校などに働きかけて、人数などを集めるのが良いと思う。

・近隣住民に DM などで声をかけてボランティアとして参加してもらうなど。

・地道な活動を続けたり、メディアを活用する。

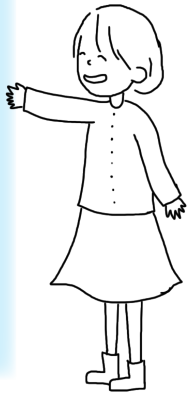
質問４：もしこんな街になったら、どんなことが起きそうですか？

回答：

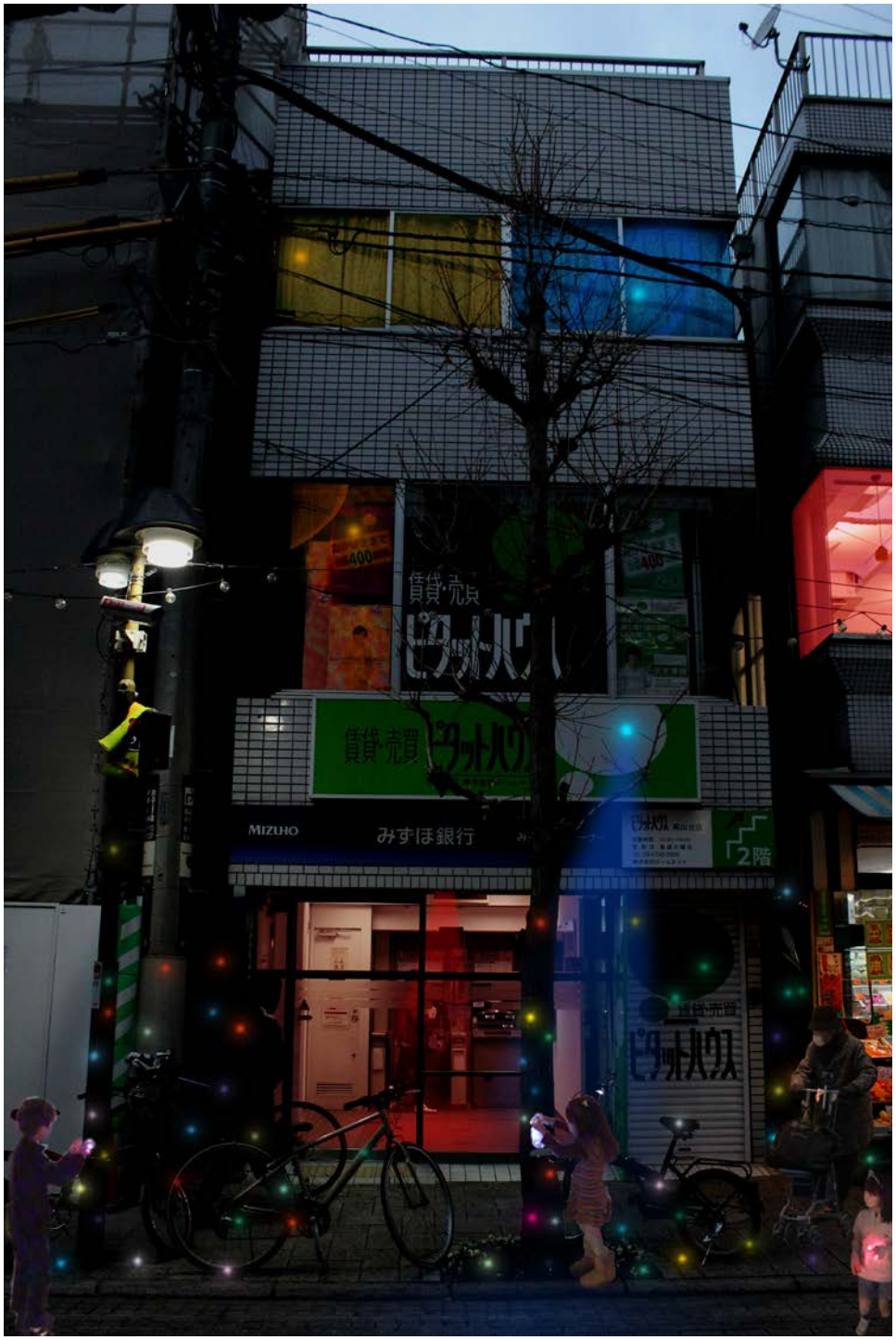
・犯罪が減る。皆の心が明るくなる。１人で夜道も明るい雰囲気で歩きやすい街になりそう。

・昔のように近隣住人とのコミュニケーションが増えそうな、増えたら良いなと思います。

・あまり華やかな電飾を好まない方もいらっしゃるかもしれないし、微妙な点もあるかもしれない。



ワークショップを終えて

大人と違った発想から生まれる子供のイルミネーションには、「近隣住民のコミュニケーションを増加させ、犯罪を減らす力がある」こと、そして「子供達自身の想像を育み、商店街への思いを養う」ことができるという意見がワークショップ見学者である大人たちから出されました。

子供によるイルミネーションの実現に向け、住民一人一人が同じ目標に向けて協力し、その経験を共有することで、街が盛り上がると思います。住民参加型の街づくりを行うことで、子供や大人、高齢者の世代を超え互いに見守り合う意識が生まれ、安全でかつ快適な環境をつくることが可能になるのではないかといえます。